



vol.
176

今月のお題
.....

マンガで伝える電波天文学

とかくなじみにくい電波天文学。親しみやすいマンガを通して、その面白さや仕組みを伝えることにトライしています。

高梨直紘 (東京大学) / 平松正顕 (国立天文台チリ観測所)



マンガを使ったアルマ望遠鏡観測成果紹介ポスター。「三鷹・星と宇宙の日」で多くの方に楽しんでいただきました。

皆さん、マンガは読むでしょうか。まったく知らない世界を絵とセリフで伝えられるマンガという手法は、天文学にあまりなじみのない人たちと一緒に宇宙を楽しむ手段になり得ます。ちょうどマンガを描ける方が同僚になったので、仕事のほうで「マンガでわかるアルマ望遠鏡」という取り組みを始めてみました。主にtwitterのアルマ望遠鏡アカウント@ALMA_Japanで、マンガを使って電波天文学の紹介をしてみようというものです。

アルマ望遠鏡では、例えば若い星のまわりにガスが円盤を作って渦巻いているようすや、そこに含まれる分子の種類を特定することができます。こうした内容をtwitterで発信すると「なんで回ってるの?」「なんで物質の種類がわかるの?」という質問が寄せられます。twitterの短い文字数で、観測成果紹介のたびに説明するのは大変。そこでマン

ガを使うことにしました。ドブロー効果や分子輝線の放射メカニズムは高校物理や大学量子力学の範囲ですが、分子が動いたり回ったりする様子を4コママンガに描くことで直感的に理解してもらうことを目指しました。おかげさまで評判も上々です。twitterで「マンガでわかるアルマ望遠鏡」と検索すると出てきますので、皆様もぜひ一度ご覧ください。

もう少し長いマンガとして、観測成果そのものの紹介もしています。4ページの短編物語風で、その観測で何がわかって何がすごいのか、研究者のワクワクとともにお伝えしています。国立天文台三鷹地区の特別公開「三鷹・星と宇宙の日」で大きく引き伸ばしてポスターとして掲示したところ、お子さんを含む幅広い年齢層の方にご覧いただくことができました。文字が多いふつうの観測成果紹介には子どもは見向きもしないことが多いですが、そこはやはりマンガ。その

力を再度実感しました。

というところで思い出したのは、私も小さいころマンガをよく読んでいたということ。同年代の方には懐かしいかもしれない「ひみつシリーズ」です。宇宙はもちろん動植物や昆虫、乗り物など、このシリーズを通して得られたたくさんの知識は私の中に確かに根付いています。「目指せひみつシリーズ」というのは高すぎる目標ですが、目に見えない世界をもっと楽しいものにするために、今後もいろいろな物語を考えていきたいと思っています。